



泊船集  
中

4414  
2



御詠集  
中

4414  
2

昭和九年十月一日  
卯末

林業

林業

林業

林業

林業

林業

泊船集卷之三

芭蕉菴拾遺稿

洛陽 風國撰次

反九部

山崎宗鑑の旧跡

有るはまのりつゝなまらん杜若



郭一公

須了乃延れ矣さきよ郭一公

此訓書ハ須一公の延れ乃  
ええはる。是ハ須一の延れ乃  
也。一公の延れ乃ハ人を放  
ちてのりつゝなまらん杜若  
おもしろいかな

白中

=

郭公正月八梅乃

清一乃一耳一香梅

形一乃一入乃一

郭公梅乃馬一乃一

子一乃一乃一乃一乃一

乃一乃一乃一乃一乃一

杜翁乃乃乃乃乃乃

郭一乃一乃一乃一乃一

鳥一乃一乃一乃一乃一

乃一乃一乃一乃一乃一

乃一乃一乃一乃一乃一

乃一乃一乃一乃一乃一

杜翁乃乃乃乃乃乃

子一乃一乃一乃一乃一



牡丹

まゝの路や牡丹入るも乃

あゝ

卯乃花やま柳に及ひ

あゝ

まゝの路や牡丹入るも乃

まゝの路や牡丹入るも乃

あゝ

あゝ

風

文乃像

風薫る羽織を襟やつくはら

まはや風乃薫る牡丹相拍子

小倉山

和杉子海女一也同久松

落柿舎

和杉子海女一也同久松  
料理

お

あ

二

凡

我

新



子...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...

...  
 ...

...  
 ...

...  
 ...

...

...

上ノ山 山ノ下 山ノ上 山ノ下  
富上川

大井 川 水 池 田  
塚本氏

大井 川 水 池 田  
大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田  
大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田  
大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田  
大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田  
大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田  
大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田  
大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田

大井 川 水 池 田

なまこ

ちたハましの昔回葉ちつりな  
こハ島田のしりつり

七日羽屋のよこぬり

雨籠の里よちの重行の

ぬり  
ぬりなまこ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

ぬり

ぬりなまこ

ぬりなまこ

ぬりなまこ

糀

あやの草 紐

あやの草

あやの草 紐

あやの草

あやの草 紐

あやの草

あやの草 紐

あやの草

あやの草 紐

あやの草 紐

あやの草 紐

あやの草 紐

あやの草 紐

あやの草 紐

あやの草 紐

あやの草 紐

中

中

中

中

中

中

中

大津一丹一

中

中

中

中

中

中

中

中

下津湖にさる

水籙

乙卯ハ水籙ニシテぬ籙也

露川ハ水籙ニシテ

おろりハ水籙ニシテ

水籙ニシテ

水籙ニシテ

水籙

水籙ニシテぬ籙也

水籙ニシテ

水籙ニシテ

水籙ニシテ

水籙

水籙ニシテ

夕顔

夕顔也酔て顔も空乃宛

夕顔も入んり中もあそび

夕顔乃白く花乃存加末席

こ天和乃比乃白まも

燭

浮

川中舟想はるる波に揺

ぬるの波のちんちんちん

浮きよき海に入らぬ上川

四糸乃川原すしこも

夕月お乃くらぐわ有る

さるはまそ川中もな

をちんちんちんちん

酒乃こりのらひあそぬおの

たき一むむむむむむ

ねとこいハ細織ちんちん

法師老人もよき

桶や  
うたや

あゝ第子おまじしとまはる  
うかじしとひ乃しとる  
ささしとる都乃とま  
なまじしとる

川風も清くもなまじしとる

閑居もあまじしとる  
りしとる

清くもあまじしとる  
なまじしとる  
なまじしとる

淵菴石水亭

あゝ山吹浦知し  
なまじしとる

尾花澤清凡

なまじしとる  
なまじしとる  
なまじしとる

腰上

腰上も清くもなまじしとる  
なまじしとる



象瀉

象瀉乃雨也西行一の合歡の

西行極 西行法師

象瀉乃極 ハヤシヨモ埋れ  
こふ乃上こく延出れはり船

花乃上瀆 花乃上瀆  
まきし古な極のしき 蚶  
満ち乃さうり 満ち乃さうり  
波を浸せる 波を浸せる

夕晴や極子涼すは乃

十八樓乃記 十八日

けあさるも月乃 けあさるも月乃

野明亭

さし 風瀑を駿別  
さし 風瀑を駿別  
さし 風瀑を駿別  
さし 風瀑を駿別

海中

雪草亭

涼さやまの露を乃枝

乃形

唐破凡此入目也

溝より入る

遊草亭

秣原へは枝を乃枝

りるまへは乃枝

乃自の枝は乃枝

乃つゆり乃枝乃枝

あつゆり乃枝

野草亭乃枝乃枝乃枝

海下

か

部  
三川  
はく  
はく  
はく

か

目  
か  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく

申す  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく

正成之像

鏡肝石心付入情

坊  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく

竹酔目

坊  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく  
はく

はく

海

岐山

おめ

お船

若み

もろ

掛

人

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

田十

月平一は時をみまはる

清瀧

清瀧也波平一ちるこせ

青松村

波平一を  
清瀧乃あり  
ありハ

山

六月廿四年ノ雪

那須ノ温泉

湯をむきぬも

逢龍尚全

花乃名をせつ子

許六本曾路おもく

旅人乃ふも似よ推のそれ

うまへの旅 新し本曾の

揮

岐阜山

城あや古井入清水先同す

尾カ初ま入の吹と

世も旅よ志るく小田 田

ひか

盤斎 るむま

像 積

團 あの人 智 つま

奥カ初か

ゆき嶋やいつい ぬ の道

お初の宣取上 ま

眉 影 影 糸 糸 結 結 七

千一子の身あつちのつちつち

このあがり去來あつちのあつち

つちあつちのあつち

なまのあつち小袖あつちもあつち今あつちやあつち  
出用あつち千あつち

幻住あつち菴あつち 詔あつち儀あつち實あつちアリあつち

えとあつち乃あつちたあつち權あつち乃あつち本あつちとあつちありあつち

佛頂あつち禪師あつちのあつち菴あつちもあつち

本あつちつあつちなあつちとあつち菴あつちハあつちなあつちぬあつちがあつちなあつちらあつちせあつち

田あつち部あつち

へあつちつあつちつあつちつあつちつあつち

長あつちつあつちつあつちつあつちつあつち

其あつちつあつちつあつち

麦あつちのあつち種あつちもあつち何あつちもあつちはあつちなあつちらあつちぬあつち

つあつちつあつちつあつち

うあつちなあつち并あつちもあつちなあつちらあつちぬあつちもあつち

海にまゝ

廿九日入乃え付ぬまをや軒の

加列お枝よ別道

七の書し之船子引せし名残地

武隈乃松久を申しを運道橋

舉白と云者饒別ト云れり

梅よりまゝハニを三月廿

奥列高館

あつちやまの

あつち

あつち目も海も入あつち

あつち

あつち



二子軒

菽椀門ハ葎カクマカ葎

青葙一ハ目の重ト持

殺生

石乃音ヤる葎赤ク露路

美及流ハ百草

ヤるまぢんありさの枝

ヤるまぢん

幾

鎌倉子生カク人初幾

幾人ハのちのハハ酔人

葎舎乃畫禱

廿下カク葎葎カク

題

櫛乃目下やあぢまき 階の  
しんまき くらひの句

這もよほくをの下の路の  
ちり

篠乃露袴ののろ 片の好

此句乃ともく 一つよ後乃孫子

あまを今一り

我宿ハ蚊乃ちらひさまを馳走

らんじりと標やあるさむ白あふ

かまのうま 小なまの上の鯨の腸

な乃あやら明しゆひやあ

くまのひまや 竹乃子あなな

水や月や 鯛ハあまのしんまき

ま月 一や 平餅の穂あ

闇のあや 葉あまをけしやあ島

大津本第1号

秋 ちらひな 人乃 高平 一や 回あ

泊船集卷之四

芭蕉菴拾遺稿

維陽 風國撰次

秋乃部

越後の公高田医師阿  
を富

藥園下

初秋や雲の影の如く  
たゞ

又月の光も雲の影の如く  
たゞ

~~~~~

合歡の本此葉の影  
~~~~~

~~~~~

荒花や依流の影の如く  
~~~~~

吊初秋七日雨日生

え縁六文月七日の如く

~~~~~

河の影も白浪銀

~~~~~

鳥雀も橋杭も~~~~~

~~~~~

~~~~~

一燈の如くほろりたる  
小町にうきを吹かす人  
あつた日はしるしに  
を探して両目さかしく  
かきしらす

小町にうき

しるしにうきを吹かす人

編綴の如く

杉風

七つにうきを吹かす人

群集の如く

七つにうきを吹かす人

素堂乃母七十餘の如く  
乃秋七月七日の如く  
万葉七種をもて  
是よつとある者七人  
縁の如くし各まこと  
とある如く

七律乃秋乃しちりつ乃秋乃しちりつ乃秋乃しちりつ

秋秋秋

秋秋秋

秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ

秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ

秋

秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ

秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ

秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ

秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ秋秋秋しちりつ

— 鹿のこゝろをいふ  
うたかたのうた

— 鹿のこゝろをいふ

こよろと猶露り  
— 鹿のこゝろをいふ

家ハミ杖

— 鹿のこゝろをいふ

けいふの書

— 鹿のこゝろをいふ

— 鹿のこゝろをいふ

— 鹿のこゝろをいふ

— 鹿のこゝろをいふ

鹿のこゝろをいふ

心持の心持の心持の心持

心持の心持の心持の心持

心持の心持の心持の心持

あはの心

閑閑 又ハ使邦ハ文庫

あはの心持の心持の心持

あはの心持の心持の心持

あはの心持の心持の心持

あはの心持の心持の心持





いふ由詞書に續するを  
ええあり

秋風

あつと目ハ難而秋の風

秋風乃吹とも書  
栗乃

形谷乃觀する

石乃乃るより秋の風

加賀山中桃姪の名を以て

桃乃

乃本乃其葉より秋の風

一はかしの者か道よ好む方  
本より一とゆふらんし世に  
知し人の待つ かなき世の  
冬・早一世とてかたし  
其の心  
まがもははるまじ

塚と動りまのまへへまのまへへ  
あまの風

半部屋まの虫のまのまへへ  
あまの風

たむく銘

人の短まじりたる  
まの長まじりたる

おのへに居るまの風の風



いさゝひもまゝにさ〜い乃

郡いさ

之福二年つきの漢の月を  
〜氣比乃明神〜  
詣遊び上ノ乃古  
例なき〜

月清〜遊び乃もいさ  
砂い乃

雲のく〜人をも体〜月人々

花頭〜人々乃〜  
月人々

月影やま〜  
月乃

日向ハ阿婆葉乃々乃乃乃  
〜比乃路〜  
終母乃んえ乃乃乃

若月ハ〜乃乃乃乃乃

谷月や川に映る月影

言掛しぬ月影を涼しき

常陸のまゝりる船中

~~~~~

明ぼる花月七夜に之影

堅田十二夜に辨二句今更々  
小文庫

鑑照し月影入浮御堂

安~~~~~いづれよ月の影

我六向ハ四角を影を定む

院しむ月影細筆入空を嫁乙和乃此乃句し

月さびく明智の書乃る影

け句乃詞書勸進帳にえたり

峰乃る月や其影

け句乃詞書勸進帳にえたり

谷月や川に映る月影

け句乃詞書勸進帳にえたり

千石の産して誦願ある月の歌

け白ハ鹿島下一まきし  
多きふて根本ちまきし  
口  
口ちまきし

三ノ月の地と膝やりの島

け白ハ三ノ月の説あり今  
更々

深川ハ五本松とりの島  
舟もきし

川止とこ乃川と月のな

十六夜ハさるる園れちり

歌加賀下り

八月や小正月新さしめ

清水くさるるを流る時俗  
あつとつとりの清か細言  
力橋をもあり一葉あり  
あつとつとりのくさるるも

あつとつとりのくさるるも

玉のつら

月乃のつらなるは共のつらなる

湯のつら

月乃のつらなるは共のつらなる

燦山

美のつらなるは共のつらなる

瀧

月乃のつらなるは共のつらなる

月乃のつらなるは共のつらなる

月乃のつらなるは共のつらなる

月乃のつらなるは共のつらなる

正秀のつらなるは共のつらなる

月代のつらなるは共のつらなる



九月の暮しと月乃のつらさ

大なる睡止し

月下の夜更

月澄や物こころも 思ふは

若月や海をよこす 舟の

三井さるる門を ぬきしや  
巻接伴さるる

橋桁のつらさのよは 月影の

よほしむらさき 月影の

こころ月や雲に けらけら

あし白の雲が ちかちか  
天和乃

入月おまへハ 初乃西陽

東願のむらさき  
け白ほしむらさき 白足弟





〜

田は此は注ぎたる

刈割も也早稲〜

野田よし

鳴るあ〜

病雁乃おさむ

菰のし  
揺ねのな

桐乃木よ鶏さ〜  
堆から由

田は此は注ぎたる

鷹乃目も今也〜

先乃名乃あ〜

系乃し

系乃し

〜

美流の如く別

〜

〜

~~~~~

船。多色帆とす。風乃てせしむ

け向一海乃製多りとせしむ

~~~~~

~~~~~ 野乃 了 豊 雨 開

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

琴箱や古物店へ昔  
新白の玄葉乃もさうし  
つりけりぬ

草けさや日くわ

新白ハし列、酒も推

まかり、時乃る

つり

草葉乃雨

都あは葉海のりあのあ

加多山中一

山中や葉ハるる湯乃  
よほひ

葉乃茶味や石屋乃石乃

よ田

かゝれりや月と葉乃田三

あゝ〜乃重陽

葉乃香也 大念良よ

あゝ〜乃律儀

〜の〜の〜の〜

葉乃香也 大念良よ

あゝ〜乃律儀

乃極〜亭

あゝ〜乃律儀

葉乃香也

難はその亭

白葉乃月あらしんん

此句は〜亭にあり

葉 葉合

あゝ〜乃律儀

〜の〜の〜の〜

枝乃り乃目よ

本曾路

孫や命

ほろつ支

鬼灯も實も葉も

晝 賛

雞頭や雁乃来るは尚あ

深川

深川 お遊

青

お白も 哥はあり深川集

母 名 菴

羊の



伊賀山中一首

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

妻まきひや~~~~ぬちた葉の

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

ひいとま〜尾あ〜  
おの座

~~~~~

精もとの〜めり野を

秋乃くれと

枯枝千鳥乃とはわりり  
秋乃暮

こゑくむを持しき  
秋のれ

秋のハ雪行  
~~~~~

襟下〜習人乃  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

此道やびんを 秋のいれ

大坂清水茶店

四ノ甲たきうよし

麦風の軒やめく山 秋のいれ

早稲の音やふく入 右ハあり海

同行「曾良」に別道へまよひ

をよみたりや書付消へてはた

一歩よ道女も寂多の萩と日  
たえしそあしやまよひちりて

たこ向詞すゝ細道

こあしれはれに

あ。中 菴よるさき

秋のいれよまわや 秋のいれ

秋のいれよ乃瀧

さきさや須らな 秋のいれ

守学院

門下に入ると蘭の種糸の子は

飛地

悼去る嵐

又ハ及日記末々ハ甚ホホ出

秋風よ打て所もあすの枝

初十日詣首全

～～～也元の七日、墓の

也月三日ちるま

野の宮

野の宮乃花表の鶴も

鳴海知是亭

～～～の種

書回

西の～の種

泊中

信よーカキ

孫よーかき 月見

車一席亭

面白支秋乃給覆や亭一

草の葎

粟稗のまー

元孫二つさ九秋

大垣のまー

中一

中一

中一

下宿代

下宿代

下宿代

下宿代

女本澤 桐葉興

秋 涼 風 吹 け ば 葉 落 ち ぬ

閑 心 徒 書 筆 一 何 一 大 垣 乃

旅 店 へ 訪 れ ば ち づ ち づ ち

多 事 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

宗 祇 乃 ち 一 一 一 一 一 一 一 一

冬 乃 雪 下 八 俳 諧 乃 一 一

冬 乃 雪 乃 一 一

冬 乃 雪

猿 引 乃 猿 乃 小 袖 乃 ち づ ち づ ち

入 麩 乃 下 多 事 乃 ち づ ち づ ち

題 一 一 一

夕 夕 顔 乃 秋 乃 ち づ ち づ ち

お ー け ー 返 乃 ち づ ち づ ち づ ち

初草やもは数層ぬ秋の露

ひーきけらぬ露さく

稀きくもん茶乃木富や新や

秋乃おもふ命あたまさうな

系乃竹大根乃外さく

指乃實さく。さくは羽音や

初あ

叶秋ハちんて年一さく

さく

山ハの空樹乃色乃さく

暮秋乃さく

相動く秋乃終りや暮乃霜







